

独身アラフォーの 現在と未来

未婚化・晩婚化が進む現代では、
30～40代の未婚シングルはもはや例外でも特別でもない、
社会の中でごく普通の、そして、大きな存在になっています。
本講演会では2名の講師を迎え、独身アラフォーたちの今の姿を、
生活の実状を広く調査したデータに基づいて解き明かし、
さらに、その将来の姿についても展望します。

「独身者のリアル — 不安と展望」

永井 暁子

(日本女子大学人間社会学部准教授)

「家族格差社会の到来 — アラフォー世代の将来像」

山田 昌弘

(中央大学文学部教授)

2015年11月30日(月) 14:00～16:00 [入場無料 / 開場13:30]

■ 会 場：学士会館 (202号室) ■ 住 所：東京都千代田区神田錦町3-28
■ 最寄り駅：「神保町」駅から徒歩1分 / 「竹橋」駅から徒歩5分

■ お申し込み方法

参加希望者全員のお名前(ふりがな)、ご住所を明記の上、Eメール、FAXまたは郵便はがきでお申し込みください。
後日、入場整理券をお送りいたします。※個人情報とは当講演会の開催以外の目的には使用いたしません。
定 員：100名(お申し込み先着順)

■ お申し込み・お問い合わせ先

〒102-0073 東京都千代田区九段北2-3-7 前川九段ビル3階
公益財団法人家計経済研究所第51回公開講演会係

● TEL 03-3221-7291 ● FAX 03-3221-7255 ● Eメール info@kakeiken.or.jp ● URL <http://www.kakeiken.or.jp>

講師のご紹介

ながい あきこ

永井 暁子 日本女子大学人間社会学部准教授

東京都立大学大学院博士課程単位取得退学。財団法人家計経済研究所研究員、同次席研究員、東京大学社会科学研究所助教授を経て、2007年から現職。専門は家族社会学、家族政策論、社会調査論。大学院では家事労働や夫婦関係を研究し、家計経済研究所在籍時からは生活時間や家計についての研究を行う。また、ワークライフバランスなど働き方に関する国際比較調査を実施し、研究を進めている。公益財団法人家計経済研究所の調査研究プロジェクト「単身者の生活と意識に関する研究」で主査を務めている。主な著書に、『対等な夫婦は幸せか』（共編著、勁草書房）、『結婚の壁—非婚・晩婚の構造』（共編著、勁草書房）がある。



やまだ まさひろ

山田 昌弘 中央大学文学部教授

東京大学大学院博士課程単位取得退学。東京学芸大学教授を経て、2008年より現職。内閣府・男女共同参画会議民間議員などを歴任。専門は家族社会学。愛情やお金を切り口として、親子・夫婦・恋人などの人間関係を社会的に読み解く試みを行っている。「学卒後も基礎的生活条件を親に依存している未婚者」の実態や意識について分析した著書『パラサイト・シングル時代』（ちくま新書）は話題を呼んだ。1990年代後半から日本社会が変質し、多くの若者から希望が失われていく状況を『希望格差社会』（ちくま文庫）と名づけ、格差社会論の先鞭をつけた。婚活の造語者でもある。著書は他に、『近代家族のゆくえ』（新曜社）、『迷走する家族』（有斐閣）、『家族ペット』（文春文庫）、『少子社会日本』（岩波新書）、『なぜ若者は保守化したのか』（朝日文庫）、『家族難民』（朝日新聞出版）、『婚活時代』（共著、ディスカヴァー21）など多数。近著に『女性活躍後進国ニッポン』（岩波ブックレット）。



会場のご案内

- 学士会館（202号室）
東京都千代田区神田錦町3-28
- 地下鉄都営三田線・新宿線
東京メトロ半蔵門線
「神保町」駅A9出口から徒歩1分
- 東京メトロ東西線
「竹橋」駅3a出口から徒歩5分

